

平成31年度

授業概要（シラバス）

科目名	日本国憲法 (2) 単位		担当者氏名		細貝巖 (細貝法律事務所：弁護士)
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。日本国憲法が我々の生活にどのように関わっているかを理解することが、授業目標である。				
授業概要	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。 日本国憲法にはどのような規定があるか確認し、様々な解釈に基づいた解説をする。				
授 業 計 画 表	1	憲法・国家とは			
	2	日本憲法の歴史			
	3	象徴天皇制			
	4	平和主義・人権総論			
	5	包括的人権			
	6	自由権的人権			
	7	社会権的人権			
	8	参政権と国務請求権 国民の基本的義務			
	9	立件民主制の原理			
	10	国会と立法権			
	11	内閣と行政権			
	12	裁判所と司法権			
	13	財政のしくみと国民			
	14	地方自治のしくみと国民			
	15	まとめ テスト			
成績評価基準	授業態度、定期試験結果により総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	印刷プリント 「日本国憲法」				

授業概要（シラバス）

科目名	人間関係論 (2) 単位		担当者氏名		三沢妃佐江 (元幼稚園教諭)
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。しかし、形式的で表面的な浅い付き合いで終わってしまうことも多い。人と人の豊かな関わりをもてるようになることで人間になっていく。主体的な活動や、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるための援助方法や人間関係についての基礎を習得する。				
授業概要	人間関係のあり方や内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりを通じた人間関係の発達について実践エピソードを取り上げて解説していく。 教育者としてどのような関係性を築いていくのか等様々な関係について考察していく。				
授 業 計 画 表	1	人間関係の基礎			
	2	人間とは			
	3	人間関係の発達①			
	4	人間関係の発達②			
	5	対話			
	6	家族と人間関係			
	7	集団			
	8	職場集団			
	9	性にかかわる人間関係			
	10	教師と子どもの人間関係①			
	11	教師と子どもの人間関係②			
	12	人生の年齢段階区分と若年期			
	13	母と子			
	14	外国の育児観			
	15	まとめ テスト			
成績評価基準	授業態度、定期試験結果により総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	印刷プリント				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	福祉施設体験演習 (1) 単位		担当者氏名		渡邊壽子 (看護師：福祉施設勤務)
			学習形態		演習
学科 開講学年	管理栄養士学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	福祉施設の利用者個々の健康状態、食事形態、栄養管理の実際と衛生面と設備について、食べやすい調理法の工夫や食環境の整備について理解する。				
授業概要	福祉施設の概要、利用者の理解を深め、管理栄養士と施設給食の在り方について学ぶ				
授 業 計 画 表	1	福祉施設の概要			
	2	利用者の概要			
	3	施設の処遇目標			
	4	利用者の生活と施設職員の役割・業務①			
	5	利用者の生活と施設職員の役割・業務②			
	6	施設の介助の実際①			
	7	施設の介助の実際②			
	8	施設の介助の実際③			
	9	施設の介助の実際④			
	10	利用者の個々の食事形態と献立づくり①			
	11	利用者の個々の食事形態と献立づくり②			
	12	利用者の個々の食事形態と献立づくり③			
	13	相談援助・チームアプローチと専門職①			
	14	相談援助・チームアプローチと専門職②			
	15	これまでの振り返り（学びを話し合う）			
成績評価基準	授業姿勢、提出物、レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	印刷プリント				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	生物学 (2) 単位		担当者氏名		甲原玄秋 <small>(元千葉県こども病院歯科部長)</small>
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	生物とその生命現象について理解し、多様に見える生命現象を共通した原理や仕組みで説明できることを学ぶ。また、管理栄養士として食と栄養分野に携わる人材として、ヒトのからだのしくみを学び、将来専門分野を学ぶときの礎となることを目的とする。				
授業概要	ヒトのからだの理解に焦点を絞り、ヒトの細胞、生殖と発生および遺伝、遺伝子また人体の成り立ちについて学ぶ。				
授業 計 画 表	1	1章 細胞の構造と働き			
	2	2章 生命体を構成する物質			
	3	3章 遺伝子の構造と機能			
	4	4章 生体とエネルギー			
	5	5章 光合成と窒素同化			
	6	6章 細胞の分裂・情報伝達・がん化			
	7	7章 生命体の受精と成長			
	8	8章 多細胞生物の自己維持機構			
	9	9章 遺伝の仕組みと遺伝病			
	10	1 1章 生物の進化と多様性			
	11	1 2章 生命科学技術と社会			
	12	復習 1章～3章			
	13	復習 7章～8章			
	14	復習			
	15	まとめ、テスト			
成績評価基準	提出物、小テスト、期末考査を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	やさしい基礎生物学 羊土社				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	健康栄養学 (2) 単位		担当者氏名		園原規子 (元厚生連栄養科科长)
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	我が国の疾患構造や死亡原因の多くは生活習慣病によるものとなり、これは加齢や遺伝的な要因に加えて食習慣、飲酒、喫煙、ストレス、睡眠不測などの生活習慣と密接に関係する。生活習慣病は、生活習慣を見直すことにより予防や改善が可能である。特に「食」と「栄養」に関連する要因の改善は生活習慣病の予防や改善に大きく寄与することを理解させる。				
授業概要	これまでは効率よく栄養素を摂取する"バランスの良い食事"から、健康のための"バランスの良い食事"を実践する栄養学が中心になってきている。そこで健康栄養学においては、栄養素や食品を単なる"物質"としてとらえるのではなく、生体機能を中心に指導し、栄養学の大切さ、興味深さを知らせるための基礎科目として学習させる。				
授 業 計 画 表	1	代謝とエネルギー			
	2	糖質・脂質の代謝と栄養			
	3	たんぱく質の代謝と栄養			
	4	ビタミンの代謝と栄養			
	5	ミネラルの代謝と栄養 非栄養素と栄養			
	6	消化器系と栄養			
	7	肝臓と栄養			
	8	脂肪組織と栄養			
	9	筋肉、運動と栄養			
	10	免疫と栄養 脳と栄養			
	11	皮膚・美容と栄養			
	12	糖尿病・高血圧・肥満			
	13	動脈硬化疾患・血栓疾患・骨粗鬆症・がん			
	14	アルツハイマー病・寿命と栄養			
	15	まとめ テスト			
成績評価基準	小テストやレポートの成績、定期試験の成績、課題提出状況を総合して評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	サクセス 基礎栄養学				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	健康管理概論 (2) 単位		担当者氏名		甲原玄秋 <small>(元千葉県こども病院歯科部長)</small>
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	健康を維持・増進するための方策を考えるうえで、健康を構成する因子を解析し、健康状態を地域ならびに個人レベルで知ることにより、健康増進、健康づくりの具体的な試作を理解させる。				
授業概要	健康管理のための考え方や方法を習熟し、具体的な健康管理術として応用できるように理解させ、また病態からの回復における健康管理的志向の策とさせる。 具体的には、健康の概念と定義、健康の現状、健康増進と施設・対策、健康管理、健康管理の実際とくに地域・学校・職域・歯科・病院における対策、ライフステージ健康管理などについて理解させる。				
授 業 計 画 表	1	健康の概念			
	2	疫学			
	3	統計学			
	4	人口統計			
	5	保健統計指標			
	6	健康づくり			
	7	健康管理の方法			
	8	生活習慣と健康			
	9	生活習慣病の疫学・予防・健康管理			
	10	地域の保健予防システム			
	11	高齢者・成人の健康管理			
	12	母子の健康管理			
	13	学校の健康管理			
	14	職場の健康管理			
	15	まとめ、テスト			
成績評価基準	授業姿勢、小テスト、期末考査、課題提出状況を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	基礎から学ぶ健康管理概論				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	解剖生理学Ⅰ (2) 単位		担当者氏名		江東 孝夫 (えとう 医院院長・医学博士)
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>生体の機能を学習する上で、その構造から理解する必要がある。 すなわち、生理学を理解する上では、解剖生理学的理解が必要である。 両者を有機的に結びつけて学習させ、生体の組織・期間の働きを動的に理解できるように指導する。</p>				
授業概要	<p>組織や器官の構成単位である細胞の機能、骨格と骨格系の機能、 血液と体液の機能、筋、神経の構造と機能などについて理解させる。</p>				
授 業 計 画 表	1	第一章 細胞と組織			
	2	第二章 消化器系			
	3	第三章 血液・造血器・リンパ系			
	4	第四章 循環器系			
	5	第五章 消化器系			
	6	第六章 腎・尿路系			
	7	第七章 生殖器系			
	8	第八章 骨格系			
	9	第十章 内分泌系			
	10	第十一章 神経系			
	11	第十二章 感覚器系			
	12	第十三章 免疫系			
	13	第十四章 皮膚組織、体温調節			
	14	確認テスト			
	15	まとめ			
成績評価基準	<p>授業姿勢、課題提出状況、小テスト、期末試験結果を総合的に評価し、 60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	<p>イラストレイテッド 解剖生理学 人体解剖図</p>				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	解剖生理学 II		担当者氏名		江東 孝夫 <small>(えとう 医院院長・医学博士)</small>
	(2) 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	解剖生理学 I に引き続き、生体の構造と機能との関連を学習させる。				
授業概要	感覚系の構造と機能、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系などの構造と機能について理解させる。				
授 業 計 画 表	1	第一章 細胞と組織			
	2	第二章 消化器系			
	3	第三章 血液・造血器・リンパ系			
	4	第四章 循環器系			
	5	第五章 消化器系			
	6	第六章 腎・尿路系			
	7	第七章 生殖器系			
	8	第八章 骨格系			
	9	第十章 内分泌系			
	10	第十一章 神経系			
	11	第十二章 感覚器系			
	12	第十三章 免疫系			
	13	第十四章 皮膚組織、体温調節			
	14	確認テスト			
	15	まとめ			
成績評価基準	授業姿勢、課題提出状況、小テスト、期末試験結果を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	イラストレイテッド 解剖生理学 人体解剖図				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	解剖生理学実習 (2) 単位		担当者氏名		江東孝夫 (小児科医) 東本恭幸 (小児科医)
			学習形態		実習
学科 開講学年	管理栄養士学科 2年	開講期	後期	授業時間数	60 時間
授業目標	生体の構成要素である細胞・組織・期間・臓器あるいはそれらの調整系を 模型・標本ならびに植物体・動物体を用いて実習させ、その解剖生理学的所見と 生物調節機構について理解させる。				
授業概要	解剖生理学的観察として、植物体及び動物体（哺乳動物含む）について実習させ、 特徴的構造について観察させたのち、各種平滑筋の働き、循環器系や呼吸器系の 働きについて、映像や資料、モデルを用いて実習させる。				
授 業 計 画 表	1	肺の構造と機能	16	骨格の理解	
	2	肺の構造と機能	17	骨格の理解	
	3	循環器系の構造と機能	18	骨格の理解	
	4	循環器系の構造と機能	19	感覚受容の仕組み	
	5	循環器系の構造と機能	20	感覚受容の仕組み	
	6	さまざまな情報伝達機構	21	感覚受容の仕組み	
	7	神経伝達の仕組みと内分泌とのつながり	22	中枢神経系の構造と体性感覚の受容	
	8	神経伝達の仕組みと内分泌とのつながり	23	中枢神経系の構造と体性感覚の受容	
	9	神経伝達の仕組みと内分泌とのつながり	24	運動制御の仕組み	
	10	生体防御と恒常性の維持	25	運動制御の仕組み	
	11	生体防御と恒常性の維持	26	食べ物のゆくえ（摂食嚥下と消化吸収）	
	12	生体防御と恒常性の維持	27	食べ物のゆくえ（摂食嚥下と消化吸収）	
	13	骨と筋肉の生理機能	28	細胞から固体へ、そして老化まで	
	14	骨と筋肉の生理機能	29	細胞から固体へ、そして老化まで	
	15	骨と筋肉の生理機能	30	まとめ、テスト	
成績評価基準	授業態度、課題提出状況、レポート、テストを総合的に評価し、 60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	オープンセサミシリーズ 管理栄養士国家試験完全合格教本<上巻> 臨床栄養学（東京アカデミー）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	臨床病態学 (2) 単位		担当者氏名		江東 孝夫 (えとう医院院長・医学博士)
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	わが国の死因の6割以上が生活習慣病であり、「健康日本21」でもその対策を急務としている。本教科では、三大生活習慣病を中心とする生活習慣病およびリスク因子をとりあげ、各疾患及び病態の病因・発生機序・臨床症状・検査値の特徴及び臨床経過と予後などについて指導し、さらに、検査診断の基礎知識を習得させる。				
授業概要	三大生活習慣病を主とする生活習慣病及びリスク因子の病因・発生機序・臨床症状各種検査値の特徴について習得、各疾患の臨床検査についての基礎や臨床経過と予後について基礎知識を習得させる。				
授 業 計 画 表	1	診断のための検査	確認小テスト①		
	2	栄養・代謝系疾患	確認小テスト②		
	3	内分泌系疾患	確認小テスト③		
	4	消化器系疾患	確認小テスト④		
	5	肝臓・胆のう・膵臓疾患	確認小テスト⑤		
	6	循環器系疾患	確認小テスト⑥		
	7	腎臓・尿路系疾患	確認小テスト⑦		
	8	神経・精神系疾患	確認小テスト⑧		
	9	呼吸器系疾患	確認小テスト⑨		
	10	血液・造血器系疾患	確認小テスト⑩		
	11	運動器・骨格系疾患	確認小テスト⑪		
	12	皮膚系疾患	確認小テスト⑫		
	13	免疫・アレルギー系疾患	確認小テスト⑬		
	14	婦人科疾患	確認小テスト⑭		
	15	総まとめテスト			
成績評価基準	授業姿勢、課題提出状況、小テスト、期末試験結果を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	臨床医科学入門（光生館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	病理学 (2) 単位		担当者氏名		江東 孝夫 <small>(えとう 医院院長・医学博士)</small>
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	病気の成り立ちや仕組みについて学習させ、病気の成因としての生活習慣・食生活・栄養状態から導かれる様々な生活習慣病における身体の各臓器・器官の組織学的変化を動的に理解させる。				
授業概要	生物学、解剖生理学から継続して、人体の成り立ちを理解するとともに、病気の成り立ちや仕組みについて学習し、生活習慣病における身体の各臓器・器官の組織学的変化を映像、資料、テキストを元に教授する。				
授 業 計 画 表	1	病理学とは			
	2	外因：栄養障害、物理的障害因子、科学的障害因子、生物学的障害因子、公害病			
	3	内因：染色体異常、免疫アレルギー奇形などを理解する			
	4	退行性病変：偏性、萎縮、壊死、アポトーシス、物質代謝障害 他			
	5	退行性病変：肥大、変形性再生、創傷の治癒と器質化、移植の意味を理解する			
	6	炎症と免疫①：炎症の定義、免疫とアレルギー			
	7	炎症と免疫②：免疫・アレルギー・免疫不全・自己免疫疾患・膠原病			
	8	血液循環障害①			
	9	血液循環障害②			
	10	寄生虫			
	11	腫瘍①			
	12	腫瘍②			
	13	腫瘍③			
	14	腫瘍④			
	15	まとめ テスト			
成績評価基準	授業姿勢、出席率、課題提出状況、期末試験の結果により総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「はじめの一步 病理学」羊土社				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	調理学実習Ⅰ		担当者氏名		藤井千鶴子 水上利夫 (元ホテル勤務：調理師)
	(2) 単位		学習形態		実習
学科 開講学年	管理栄養士学科 1年	開講期	後期	授業時間数	60 時間
授業目標	調理学で学んだ理論をもとに、実習を通して個人が調理法の基本を体得できるように指導する。				
授業概要	調理法の種類、調理の基本技術、炭水化物と調理、指導と調理、たんぱく質と調理、無機質と調理、ビタミンと調理などについて理解させながら、和食・洋食・中華について具体的に献立を立て、著理実習をさせる。基本調理実習として、調理に向かうための衛生管理を含めた重要事項を習得させ、基本的調理技術について実習させる。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション			
	2	調理の基本技術（1）			
	3	課題を仕上げる 事前事後学習			
	4	調理の基本技術（2）			
	5	課題を仕上げる 事前事後学習			
	6	日本料理（1）			
	7	西洋料理（1）			
	8	中華料理（1）			
	9	課題を仕上げる 事前事後学習			
	10	日本料理（2）			
	11	西洋料理（2）			
	12	中華料理（2）			
	13	創作料理			
	14	揚げ物			
	15	まとめ			
成績評価基準	実習姿勢、テクニカルチェック、レポートにより評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	イラストレイテッド「調理学」				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	応用栄養学実習 (1) 単位		担当者氏名		園原規子 (元厚生連栄養科科长)
			学習形態		実習
学科 開講学年	管理栄養士学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的な考え方・方法をもとに、実例を使って実際の詳しい数値を基にした栄養状態の評価・判定を実習させる。また、その評価・判定結果の正当性について考察させる。				
授業概要	学生を小人数グループに分け、小児期（新生児・乳幼児期・幼児期・学童期）および成人期（思春期・青年期・更年期・高齢期）における、栄養上の問題点や留意点を挙げ、その実例に対する栄養状態の評価・判定を行い、さらに栄養摂取上の問題点やその改善についても具体的に演習させることを通して、ライフステージの各期における生活と栄養について実習させる。				
授 業 計 画 表	1	応用栄養学実習概要	16	幼児食の献立の展開、作成のポイント③	
	2	妊娠期の献立の展開、作成のポイント①	17	幼児食の献立実習とその評価	
	3	妊娠期の献立の展開、作成のポイント②	18	学童期の献立の展開、作成のポイント①	
	4	妊娠期の献立の展開、作成のポイント③	19	学童期の献立の展開、作成のポイント②	
	5	妊娠期の献立実習とその評価	20	学童期の献立の展開、作成のポイント③	
	6	授乳期の献立の展開、作成のポイント①	21	学童期の献立実習とその評価	
	7	授乳期の献立の展開、作成のポイント②	22	成人期の献立の展開、作成のポイント①	
	8	授乳期の献立の展開、作成のポイント③	23	成人期の献立の展開、作成のポイント②	
	9	授乳期の献立実習とその評価	24	成人期の献立の展開、作成のポイント③	
	10	離乳食の献立の展開、作成のポイント①	25	成人期の献立実習とその評価	
	11	離乳食の献立の展開、作成のポイント②	26	高齢期の献立の展開、作成のポイント①	
	12	離乳食の献立の展開、作成のポイント③	27	高齢期の献立の展開、作成のポイント②	
	13	離乳食の献立実習とその評価	28	高齢期の献立の展開、作成のポイント③	
	14	幼児食の献立の展開、作成のポイント①	29	高齢期の献立実習とその評価	
	15	幼児食の献立の展開、作成のポイント②	30	まとめ	
成績評価基準	授業態度、課題提出状況、期末試験を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等					

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	臨床栄養学Ⅱ (2) 単位		担当者氏名		中島美千代 (元厚生連栄養科科长)
			学習形態		講義
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	臨床栄養学Ⅰに基づき、主に生活習慣病を中心とした各種疾患別にライフステージを考慮した栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する考え方、方法について修得させる。				
授業概要	腎臓に関する疾患、消化器系疾患、肝疾患を含む総合的な各種疾患について講義する。				
授 業 計 画 表	1	栄養障害・栄養アセスメント			
	2	代謝・内分泌系疾患			
	3	消化器疾患			
	4	循環器疾患			
	5	腎・尿路疾患			
	6	腎・尿路疾患			
	7	精神・神経系疾患／摂食・嚥下障害			
	8	呼吸器系疾患・血管系の疾患・病態筋・骨格疾患			
	9	免疫・アレルギー系疾患、感染症の栄養管理			
	10	癌、手術・周術期患者の管理、褥瘡、低栄養の栄養管理			
	11	クリティカルケア、熱傷、集中治療、摂食機能の障害			
	12	身体・知的障害／乳幼児・小児の疾患			
	13	妊産婦・授乳婦の疾患／老年症候群			
	14	栄養・栄養補給法			
	15	傾聴栄養補給法、静脈栄養補給法 まとめ			
成績評価基準	課題提出、小テスト、授業姿勢、期末試験を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等					

授業概要（シラバス）

科目名	臨床栄養学Ⅳ (2) 単位		担当者氏名 園原規子 (元厚生連栄養科科长)		講義
学習形態					
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	臨床栄養学Ⅳでは、感染症、呼吸器疾患などについて学習させ、さらに小児期の臨床栄養、母性臨床栄養、高齢者の臨床栄養という観点に加え、外科領域の臨床栄養についても習熟させる。				
授業概要	各種疾患について、適切な栄養管理を行うためのケアプランの作成、評価、マネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定・栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学習する。				
授業 計 画 表	1	栄養障害・栄養アセスメント			
	2	病原体と感染症			
	3	感染防御機構と予防			
	4	慢性閉塞性肺疾患（COPD）			
	5	気管支喘息・感染性肺炎			
	6	肺がん			
	7	小児期の臨床栄養管理			
	8	小児期の臨床栄養管理			
	9	小児期の臨床栄養管理			
	10	母性の臨床栄養			
	11	母性の臨床栄養			
	12	高齢期の臨床栄養			
	13	高齢期の臨床栄養			
	14	高齢期の臨床栄養			
	15	まとめ			
成績評価基準	課題提出状況、授業姿勢、期末試験、小テストを総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	サクセス 臨床栄養学Ⅰ（第一出版）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	臨床栄養学実習 (2) 単位		担当者氏名		園原規子 (元厚生連栄養科科长)
			学習形態		実習
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	通年	授業時間数	60 時間
授業目標	<p>傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価を行う基礎として、病態とその程度を臨床検査成績を含めて理解させた後、食事療法の基本的方針、栄養補給の方法、治療食の分類、食事計画などを習熟させる。次いで、一般治療食の実際について、流動食、軟食、術前・術後食、輸液などについて実習し、理解させる。</p>				
授業概要	<p>総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育食品と医薬品の相互作用について、特に各種計測による評価・判定方法やベットの栄養指導などについても実習させる。また、医療・介護制度やチーム医療における役割についても現場を理解させる。</p>				
授 業 計 画 表	1	授業ガイダンス	16	病態別栄養管理と成分栄養管理	
	2	食事計画・献立作成	17	エネルギーコントロール食の献立作成	
	3	食事計画・献立作成	18	糖尿病の栄養管理	
	4	食事計画・献立作成	19	実習① エネルギーコントロール食・評価	
	5	食事計画・調理実習	20	病態別栄養管理と成分栄養管理	
	6	糖尿病・食事計画	21	低塩分食の献立作成	
	7	糖尿病・調理実習	22	高血圧の栄養管理	
	8	糖尿病・献立作成	23	実習② 食塩制限食・評価	
	9	糖尿病・栄養評価	24	病態別栄養管理と成分栄養管理	
	10	肝臓・胆嚢・膵疾患・栄養管理	25	脂質制限食の献立作成	
	11	肝臓・胆嚢・膵疾患・献立作成	26	脂質異常症の栄養管理	
	12	循環器疾患・栄養管理	27	実習③ 脂質制限食・評価	
	13	腎臓病・献立作成	28	市販の病態別食品の種類と試食	
	14	腎臓病・栄養管理	29	実習から学んだことのまとめ	
	15	まとめ	30	臨床栄養学臨地実習に向けての心構え	
成績評価基準	<p>課題提出状況、授業姿勢、期末試験、小テストを総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等					

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	給食経営管理論実習 (2) 単位		担当者氏名		中島美千代 (元厚生連栄養科科长)
			学習形態		実習
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	通年	授業時間数	60 時間
授業目標	HACCPシステムに基づいた給食経営・実施の工程を確認しながら献立を作成し、栄養的ならびに経営的背景をもとに給食実習を行う。調理された食品の品質評価法ならびに経営的、食材料的、衛生的、安全的な管理について実践的に実習させる。				
授業概要	給食における衛生概念、給食実施までの食品の加工・調理の工程および原価管理の基本、HACCPに基づく給食経営管理の前工程などについて実習させる。 病因給食、学校給食、高齢者・介護福祉施設等の給食、児童福祉施設給食、事業所給食、その他の給食等について実際に献立を作成し、給食の栄養食事管理と食材料管理、生産管理、衛生安全管理、品質管理、会計原価管理などを中心に実習する。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	オリエンテーション	
	2	特定給食施設給食のポイント	17	実習対象献立試作	
	3	スチコンの使用方法和調理法①	18	保育所給食想定実習	
	4	スチコンの使用方法和調理法②	19	学校給食想定実習	
	5	厨房機器を使用した調理実習①	20	高齢者施設給食想定実習	
	6	厨房機器を使用した調理実習②	21	病院給食想定実習	
	7	厨房機器を使用した調理実習③	22	事業所給食想定実習	
	8	厨房機器を使用した調理実習④	23	帳票作成とプレゼンテーション準備	
	9	厨房機器を使用した調理実習⑤	24	学校給食想定実習 100食提供	
	10	厨房機器を使用した調理実習⑥	25	保育所給食想定実習	
	11	厨房機器を使用した調理実習⑦	26	高齢者施設給食想定実習	
	12	厨房機器を使用した調理実習⑧	27	病院給食想定実習	
	13	厨房機器を使用した調理実習⑨	28	事業所給食想定実習 100食提供	
	14	厨房機器を使用した調理実習⑩	29	まとめ、実習報告会	
	15	まとめ プレゼンテーション	30	テスト	
成績評価基準	授業態度、課題提出状況、試験結果、レポートにより評価し、 60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	給食経営管理論実習				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	事前事後教育実習		担当者氏名		園原規子（元厚生連栄養科科长） 中島美千代（元篠ノ井病院栄養課長） 熊倉利江（元新潟県保健所勤務）
	（ 1 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	管理栄養士学科 4年	開講期	後期 前期	授業時間数	30 時間
授業目標	公衆栄養学臨地実習、給食経営管理論臨地実習、臨床栄養学臨地実習に関する事前教育及び事後教育を行い、管理栄養士の有機的活動について指導する。				
授業概要	<p>（1）事前教育演習 実習内容を事前に十分理解させるために、予め作成され、指導教員にチェックを受けた実習計画書を基に、当該実習施設に知識的、技術的な内容の確認と心がまえ、さらに礼節や行動規範を確認する。</p> <p>（2）事後教育演習 実習終了歩の総括的なまとめと実習生本人以外の学生の 実習体験などを互いの学生間で理解する目的で個々の学生の報告から事後指導する。</p>				
授 業 計 画 表	1	チーム医療と管理栄養士の役割			
	2	栄養状態の評価・判定方法と栄養補給法の種類			
	3	栄養教育路・利用指導の在り方と食品と医薬品との相互作用について			
	4	栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価について			
	5	病態別の栄養管理と献立作成と展開			
	6	病態別の栄養管理と献立作成と展開			
	7	病態別の栄養管理と献立作成と展開			
	8	実習の振り返り 各実習施設の学びを発表			
	9	実習の振り返り 各実習施設の学びを発表			
	10	実習の振り返り 各実習施設の学びを発表			
	11	臨床栄養学 病態別栄養管理			
	12	臨床栄養学 病態別栄養管理			
	13	臨床栄養学 病態別栄養管理			
	14	臨床栄養学 病態別栄養管理			
	15	まとめ、テスト			
成績評価基準	<p>授業姿勢、実習評価、プレゼンテーション、課題提出状況等を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	<p>基礎栄養学</p> <p>応用栄養学</p> <p>臨床栄養学</p>				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	給食経営管理論臨地実習 (2) 単位		担当者氏名		中島美千代 (元厚生連栄養科科长)
			学習形態		実習
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	後期	授業時間数	90 時間
授業目標	実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づくマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。				
授業概要	給食センターまたは給食施設において給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。マーケティングの原理や応用を理解させるとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得させる。				
授 業 計 画 表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習先より大学指定の成績評価票によって評価を受ける。 資格取得に必要な日数（時数）を満たした者。				
使用テキスト等					

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	臨床栄養学臨地実習		担当者氏名		園原規子 (元厚生連栄養科科长)
	(2) 単位		学習形態		実習
学科 開講学年	管理栄養士学科 4年	開講期	前期	授業時間数	90 時間
授業目標	実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づくマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。				
授業概要	病因又は老人保健施設において、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解させ、具体的な栄養状態の評価判定、栄養補給、栄養教育食品と医薬品の相互作用について特に各種計測による評価・判定方法やベッドサイド栄養指導などについて実習させる。				
授 業 計 画 表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習先より大学指定の成績評価票によって評価を受ける。 資格取得に必要な日数（時数）を満たした者。				
使用テキスト等					

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	教師論 (2) 単位		担当者氏名		南雲 茂 (元小学校校長)
			学習形態		演習
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	教職者に求められる資質能力や教職の在り方などの基本的事項について理解し、時代の変化に対応した教員養成のあり方を理解し、教員に求められる専門性について論じることができる。				
授業概要	教職者の資質、専門性、制度的位置づけ、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の共同、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関との連携を学ぶ。 理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業展開をする。				
授 業 計 画 表	1	教職の意義・定義・教職者とは何か			
	2	教職者に求められる資質・能力			
	3	教員養成の歴史			
	4	教職者の資質と役割			
	5	指導計画（ねらい・内容）			
	6	教職者の仕事・義務・研修			
	7	教職者の職場環境			
	8	教職者の制度的位置づけ			
	9	教職者の任用と服務			
	10	教育現場におけるこどもとの関わり			
	11	教育現場における家庭との連携・支援、地域との連携			
	12	教職観の変遷と教員の役割			
	13	教員間の連携、学校との連携（接続カリキュラム）			
	14	今日的な教育課題に対応するために			
	15	よい教職者になるために			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「教職論」（姫路大学）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	教育原理 (2) 単位		担当者氏名		池山 康栄 (元小学校校長)
			学習形態		演習
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	教育の思想とその作用、わが国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。				
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。				
授 業 計 画 表	1	教育、教育原理の意義・目的・特性と家庭福祉等との関連性			
	2	世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践			
	3	世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践			
	4	日本の教育思想			
	5	子どもの発達と教育			
	6	子どもの権利			
	7	制度から見る学校教育			
	8	内容から見る学校教育			
	9	世界における教育の歴史的変遷			
	10	日本における教育の歴史的変遷			
	11	公教育制度、義務教育制度			
	12	教育という仕事、教授法			
	13	教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う教育の変化			
	14	教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム			
	15	教育における今日的課題③学校外との連携			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「教育原理」（姫路大学）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	教育課程総論		担当者氏名		池山 康栄 (元小学校校長)
	(2) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	管理栄養士学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>教育内容の充実と質の向上に資する教育課程について理解する。</p> <p>教育過程の変性と指導計画の作成について意義や方法を具体的に習得する。</p> <p>編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像を能動的にとらえ、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。</p> <p>保護者や関係機関との連携について学ぶ。</p>				
授業概要	<p>こどもを育てるうえで、大切なこと（目標）、どのような方法・手だて（方針）、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で等々学ぶ。</p> <p>教育課程の意義と役割を明らかにする。</p>				
授 業 計 画 表	1	教育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性			
	2	カリキュラムの基礎理論			
	3	日本における教育課程と各国の教育課程の変遷			
	4	次代の変化に対応した教育課程の在り方 編成と評価			
	5	教育課程の法と行政			
	6	学習指導要領の変遷とその特色			
	7	長期・短期の指導計画			
	8	教育課程編成の実際			
	9	教育の基本と実践（記録、教育の質向上）			
	10	学びをつなぐ連携カリキュラム			
	11	明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史			
	12	危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性			
	13	教育要領、指針の変遷			
	14	教育課程をめぐる諸問題			
	15	学校評議員制度			
成績評価基準	<p>レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し、60点以上を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	「教育課程論」（姫路大学）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	教育相談 (2) 単位		担当者氏名		草野 正信 (元小学校校長)
			学習形態		演習
学科 開講学年	管理栄養士学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育者などに助言、指導、カウンセリングを行うことである。このような働きかけを通して、子どもの持つ悩みや問題の解決を援助し、こどもの望ましい生き方・あり方や人格の成長を目指していくことである。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。				
授業概要	教育相談の究極的な目的は、子どもの人間形成、人格形成にある。生徒を対象にした現場における教育相談に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導（生徒指導）、しつけ、学習適応、進路指導等について学ぶ。またカウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。				
授 業 計 画 表	1	教育相談の概要と学び方			
	2	カウンセリングの基本			
	3	カウンセリングの実際			
	4	教育相談と心理アセスメント			
	5	自己表現と自己理解の発達			
	6	自己理解の技法			
	7	生徒理解とカウンセリングマインド			
	8	教師の行う教育相談とカウンセリングの違い			
	9	心理的援助及び保護者との教育相談			
	10	生徒への心理的援助と保護者への教育相談			
	11	教育相談の実際（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害）			
	12	教育相談の実際（不登校・いじめ、虐待・非行と心理アセスメント）			
	13	教育相談の実際（事例研究）			
	14	教育相談と家庭・学校・地域との連携と教育相談			
	15	教育相談の課題と対応			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「教育相談」（姫路大学）				